

# 平成26年度 病害虫発生予報 第3号

平成26年6月20日  
栃木県農業環境指導センター

## ○イネ縞葉枯病の発生に注意し、本田防除を実施しましょう！ ○果樹カメムシ類の飛来に注意しましょう！

予想期間 6月下旬～7月下旬

予報の根拠で、(+)は増加要因、(-)は減少要因を表す。

### 1 水稲 いもち病

- (1) 発生予想 発生量： **やや少ない**
- (2) 根拠
  - ・BLASTAM (葉いもち感染好適日条件) では、感染好適日が連続していない (15日現在)。(-)
  - ・向こう1か月の平均気温、降水量、日照時間とも平年並の見込みである。(±)
- (3) 対策
  - ・発生が見られた場合には、早急にカスラブサイドゾル等の予防・治療効果のある薬剤を散布する。(平年初発時期は6月第5半旬頃)
- (4) 備考
  - ・感染好適条件は平均気温20℃前後で、弱い連続降雨がある時。
  - ・[BLASTAMの情報](#)を当センターHPに掲載中。

### 2 水稲 縞葉枯病 (ヒメトビウンカ媒介)

- (1) 発生予想 発生量： **多い** (発生地域： 県中南地域)
- (2) 根拠
  - ・5月下旬の麦類ほ場におけるヒメトビウンカの生息密度が高い。(+)。
  - ・第1世代幼虫のウイルス保毒虫率は過去2年と比較して高い。(+)。
- (3) 対策
  - ・発生の多い地域では、本ウイルスを媒介するヒメトビウンカの本田防除を地域ぐるみで実施する。
- (4) 備考
  - ・箱施用剤を使用したほ場で本田防除を行う場合には、同一系統・薬剤の連用を避ける。
  - ・[「平成26年度病害虫発生予察注意報第1号」](#)、[植物防疫ニュースNo.4 \(水稲・縞葉枯病\)](#)をセンターHPに掲載中。

### 3 いちご (親株) うどんこ病

- (1) 発生予想 発生量： **平年並**
- (2) 根拠
  - ・現在の発生量は平年並(平年比：ほ場率95%)。(±)
  - ・向こう1か月の平均気温、降水量、日照時間とも平年並の見込みである。(±)
- (3) 対策
  - ・本ぼへの菌の持ち込みを防ぐため、採苗前に防除を徹底する。
  - ・生育に応じて葉かきを実施し、株の風通しを良くする。
  - ・軟弱徒長すると発生が多くなるので、適正な温度管理やかん水を行う。
  - ・予防を主体にベルコートフロアブル、フルピカフロアブル等を散布する。
- (4) 備考
  - ・高温時には菌の活動が抑えられ病徴が見えにくくなるが、菌は残存している。

### 4 いちご (親株) ハダニ類

- (1) 発生予想 発生量： **やや多い**
- (2) 根拠
  - ・現在の発生量は平年並(平年比：ほ場率99%、株率111%)。(±)
  - ・主要薬剤の殺虫効果が低下しており、密度抑制が困難である。(+)。
  - ・向こう1か月の平均気温、降水量、日照時間とも平年並の見込みである。(±)
- (3) 対策
  - ・雑草はハダニ類の発生源となるため、除草を徹底する。
  - ・気門封鎖剤やチリカブリダニ製剤[野菜類(施設栽培)]を活用し、有効薬剤を温存する。なお、一部の殺虫・殺菌剤は天敵に悪影響があるため注意する。
- (4) 備考
  - ・[「園芸作物に発生したナミハダニの薬剤感受性検定結果」](#)を当センターHPに掲載中。

### 5 なし 黒星病

- (1) 発生予想 発生量： **平年並**
- (2) 根拠
  - ・現在の発生量はやや少ない(平年比：ほ場率69%)。(-)
  - ・向こう1か月の平均気温、降水量、日照時間とも平年並の見込みである。(±)
  - ・本年は幸水を中心にえき花芽(長果枝)の利用率が高いほ場が多い。(+)
- (3) 対策
  - ・発病した葉や果実は2次伝染源となるため、摘み取ってほ場外で処分する。

- (4) 備考
- ・発生が多く見られるほ場では、ストロビードライフロアブル、フルーツセイバー等を散布する。
  - ・[植物防疫ニュースNo. 6\(なし・黒星病\)「ナシ黒星病菌の簡易薬剤感受性検定」](#)を当センターHPに掲載中。

## 6 果樹 果樹カメムシ類

- (1) 発生予想 発生量：多い
- (2) 根拠
- ・現在のフェロモントラップへの誘殺数は多い。(+)
    - ・昨年のスギ・ヒノキ花粉量が多かったため、越冬量は多いと考えられる。(+)
- (3) 対策
- ・多目的防災網を完全展張し、園全体を隙間なく被覆する。
  - ・こまめに園内を観察し、飛来が認められたら薬剤で防除する。
- (4) 備考
- ・夜温が下がらない蒸し暑い日の日没時に飛来が多い。
  - ・未発生園での過度な防除はハダニ類やカイガラムシ類等の天敵相を破壊し、他の害虫種の多発に繋がるため注意する。
  - ・山林に隣接したり、過去に被害が大きかった果樹園では特に注意する。
  - ・防除は夕方か早朝に行くと効果が高いが、早朝の薬剤散布時には近隣への騒音に注意する。
  - ・[「平成26年度病害虫発生予察注意報第2号」](#)を当センターHPに掲載中。

## 7 その他の病害虫

		現況	発生予想			現況	発生予想
		平年並	平年並	野菜類	タバコガ類	並	並
いちご	炭疽病						
トマト	葉かび病	多	多		ハスモンヨトウ	やや多	やや多
	うどんこ病	多	多	きく	白さび病	多	やや多
野菜類	アザミウマ類	やや多	やや多		アザミウマ類	多	多

### ○ほ場の雑草対策は害虫防除の基本です！

水田では、周辺の雑草だけでなく本田内の雑草（ノビエ、イヌホタルイ等）も斑点米カメムシ類を誘引し、発生源となります。また、施設・露地に関わらずあらゆる野菜類や花き類のほ場でも、ほ場内外の雑草は、ハダニ類やアザミウマ類、アブラムシ類の温床となります。薬剤散布時には、雑草が害虫の避難場所の役目を果たし、作物上への再侵入だけでなく、薬剤抵抗性発達の一因にもなります。適切な雑草対策で害虫類の生息しにくい環境をつくりましょう。

### 農薬は適正に管理し、正しく使いましょう！

- ☆ミツバチやマルハナバチに対する安全日数を目安に薬剤を選択しましょう。
- ☆同一薬剤の連用を避け、異なる系統の薬剤をローテーション散布しましょう。

### 1か月気象予報（予報期間6月14日から7月13日 6月12日気象庁発表）

平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。週別の気温は、1週目は、高い確率50%です。2週目は、平年並または低い確率ともに40%です。

	低い（少ない）確率	平年並の確率	高い（多い）確率
○気温	30%	40%	30%
○降水量	30%	40%	30%
○日照時間	30%	40%	30%

### NEWS & INFORMATION

- ☆「栃木県農薬管理指導士」養成研修（7月22・23日）、更新研修（7月22日）が開催されます。申込期間は6月2～27日となりますので、特に更新対象者の方はお忘れなくお申し込みください。詳しくは農政部経営技術課環境保全型農業担当までお問い合わせください。Tel(028)623-2286
- ☆県では、農薬による事故等の発生防止を図るため、6月から8月の3か月間を「農薬危害防止運動期間」とし、農薬の適正使用などについて啓発活動を行っています。
- 「平成26年度 農作物等病害虫雑草防除の手引き」が発行されています。お求めの方は、栃木県農業者懇談会（028-647-2622）にお問い合わせ願います。

詳しくは[農業環境指導センター](#)（Tel:028-626-3086 Fax:028-626-3012）までお問い合わせください。  
 病害虫情報発表のお知らせは「[農政部ツイッター\(@tochigi\\_nousei\)](#)」でも発信中です。